

## 食と職の壁～私たちの使命～

近畿ブロック代表

兵庫県 JA 兵庫六甲西神戸農業経営者協議会岩岡青年部 安尾 拓也

① 皆さん、神戸と聞くとどんなイメージがありますか？

神戸というと、スイーツの町・ファッションの街といった都会のイメージをもたれると思います。私たち岩岡青年部が活動している岩岡町は、もっとも古い政令指定都市である神戸市の西の端にあり、神戸という大消費地のメリットを生かし、都市近郊型農業として発展しています。

②岩岡青年部は、私の父が青年部で活動していた頃に部員数の減少により一度は解散しましたが、15年前にJA職員の呼びかけで、同じ町内に住む若手農家たちによって再結成されました。現在、全国の青年部・青壮年部では珍しい女性部員を含めた男女13名の若手農家で活動を続けています。

男性部員だけだった青年部に華やかな色加わり、今まで見向きもしなかった事柄が見え『こんなことも出来るんちゃう??』などと、青年部の活動内容も以前にも増して多種多様になっています。

③その中でもJAの食農せんせい制度に参加し、岩岡を飛び出して東灘区にある幼稚園でのサツマイモの定植作業や芦屋にある小学校でのもちつき大会など、畑や土に触れる機会の少ない子供たちへの出張授業を行い、地域を出た活動も行っています。

加えて神戸市が主催し、学生と農林漁業者と企業が一体となって一つの商品を生み出す「にさんがろく」プロジェクトやほかの地域の青年部のメンバーも加えた「農産物直売チーム STARS の発足」、岩岡青年部内の枠にとらわれず他団体との交流会を実施し、活動の幅を広げてきました。

しかしベースである地元での活動も疎かにしていません。もっと地域の人へ青年部のことを知ってもらいたいという思い、貢献したいという思いからJAから依頼を受け水稲苗の配達を青年部により取り組むことにしました。各農家の家ではなくて圃場へ直接配達することは、地元のことを誰よりも知っているからできることであると思います。最近では水稲苗の注文も増え、青年部の活動も浸透してきました。このように地元で根をどんどん伸ばしながら他の地域への取り組みの枝も伸ばしていきたいと考えています。

④岩岡青年部の活動原点は子供たちを中心とした食農教育活動にあります。

岩岡青年部は地元保育園や小学校との食農教育活動を結成当時から15年間継続して行っています。

保育園ではさつまいもをメインに夏野菜やもち米などの定植作業をともにを行い子供たちに自らの手で作業し土にふれてもらいます。そして収穫のときには親子や家族と一緒に参加してもらっています。

この活動を通じて、子供たちが土に触れ、楽しそうに作業する姿をみていると「一緒に作業できてよかったな」と喜びが沸きあがります。

小学校では岩岡の特産、キャベツの定植を小学校のみんなで行い、収穫も青年部のメンバーと一緒にしています。それだけでなく青年部が野菜の先生となり子供たちからの素朴な疑問に答え、「これは何なん?」「キャベツの葉っぱは何枚あるん?」キャベツ授業を通じていろんな疑問に楽しませてもらっています。

しかしながら、岩岡青年部は「キャベツを作って楽しかった」では終わりません。収穫後は小学校の体育館を使い、キャベツと一緒に植えた大根を保護者の方々に模擬セリという形で販売します。これによって、自らの手で植え、収穫して自らの手で販売するという一連の流れを楽しみながら経験してもらい私たち青年部の職業でもある「農業」というものを知ってもらいます。私たち青年部が実践している小学生のキャベツ栽培は、野菜を作って楽しかったで終わる単なる‘食農教育’活動ではありません。職業としての‘職農教育’活動でもあるといえます。

⑤しかし、長年に渡り活動を続けてきた結果、青年部の中で

「本当に農業の魅力を子供に伝えられとんやろか?」

「子供達は農業という職業をどういう風に思っとんやろか?」

といった食農教育活動の方向性に迷いが出てきました。

「それなら小学生に直接聞いてみようや!」

そういった意見が出た事により、キャベツ栽培を経験してもらった子供たちを対象に小学校の協力を得てアンケートを実施することにしました。

その結果、野菜を作ることが楽しかったとほぼ全員の児童が答えてくれました。また、10人に1人が将来岩岡町で農業をしてみたいと答えてくれました。

予想以上の回答に盟友達はびっくりしました。

プラスになる回答があった半面、農業はしんどそう、かっこよくないし汚れるから農業はやりたくない、などの子供達の率直な意見が多かったのも事実としてあり、マイナスな意見を目の当たりにした時は正直大きな壁があるようでショックでした。

こういった意見を見た、岩岡青年部唯一の女性部員のIさんが言いました。

「それやったら手間もかかからんとオシャレに出来そうな作物と一緒に作付けして子供らに農業の魅力をもっと教えてあげようよ!」

他の盟友もこの意見に賛成しました。

⑥先ほどのアンケートで子供達が自分で作りたい野菜ランキングで1位だったのがトマトでした。

そこでミニトマトのソバージュ栽培という放任の栽培方法があるという話が会議の中であが

りました。

基本的に放任栽培なので手間もかからずにしんどくない、それに黄色や紫などカラフルな実が付くという事で見た目がオシャレで興味を持ってくれるんじゃないか。

まさにIさんの言った通りの作業ができそうです。

そこでJA職員と共に小学校と保育園へソバージュ栽培の提案をしに行きました。

とはいっても盟友達の中でソバージュ栽培を実践している者がいなかったのも、いつもお世話になっている種苗会社さんに栽培方法の説明会を開いていただき、圃場準備や施設の設置など試行錯誤しながら作業を進めていきました。

ミニトマトの播種はJAの育苗センターに依頼することにし、その数週間後には小学生、保育園児達との定植作業の日になりました。

赤、黄、紫色の3色のミニトマトが収穫出来ることを伝えるとびっくりしてソバージュ栽培に興味津々でした。

無事に定植が終わり盟友達の不安をよそにミニトマトはどんどん成長していきました。その様子を子供達も熱心に観察してくれています。

そしてとうとう収穫です。

「ミニトマトのトンネルやん!」「こんなん初めてみたわ!」「ばり、うまいやん!」と子供達の驚きの声があがりました。その中でも「ホンマにほっといても出来んねや! すご〜」

「こんな育て方があんなや!」といった声には青年部の盟友も感動を隠せませんでした。

⑦さらにもう一つ地元・岩岡保育園からも嬉しい報告がありました。

今年の春、園の改装作業に伴い白の防護壁が建物を囲んでいたそうです。

そこで園長先生がその壁を使ってひまわりの絵を描いてごらんと園児達に話しました。

普通、花から先に描きそうなところを岩岡の保育園児は、みんな最初に土と種から始まり上に向かって茎、葉っぱ、花の順に描いたそうです。

青年部と一緒に種を播いたのを覚えていてくれて、

「ヒマワリは種から成長して花を咲かす」という事を無意識のうちに理解してくれていたのです。

「子供というのは実際に土や野菜に手で触れ脳を刺激させる事が一番の経験として記憶に残り、園児であるこの時期にどれだけ感性を伸ばしてあげるかが大事です。」と園長先生に教えてもらいました。

実は、私が岩岡保育園に通っていた頃にサツマイモの収穫体験をした記憶があります。

そこで一緒に収穫を手伝ってくれたのが岩岡青年部の先輩達でした。

その頃の記憶は曖昧ですが周りの友達と楽しくサツマイモを掘ったのは覚えています。

それから十数年経ちますが、教わる側から今度は自分が園児達や児童に教える側になるとは思ってもみませんでした。

⑧これで農業に対するイメージが少しはよくなったのかなあ?

いや、これまでは保育園と小学校でしか食農教育活動をしてないやん!

だったら地元にある幼稚園と中学校にも活動の幅を広げて、保育園から中学校まで一貫して農

業に対するイメージを上げていこうや！

保育園・幼稚園にもソバージュ、サツマイモ栽培体験などを！

小学校でも引き続きソバージュ、キャベツ栽培を行い、

中学校では1週間の職業体験トライやるウィークを青年部で受け入れ、保育園から小学校での野菜栽培を生かした農作業を計画中です。

少しずつですが、これからも岩岡青年部は岩岡農業の未来を担う子供たちへの‘食農教育活動’、と共に職業としての‘職農教育活動’も継続して行く事を約束します。

青年部に夢ができました・・・岩岡の子供たちを将来盟友に！！